

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	4076500125
法人名	有限会社 ケアセンターすずらん
事業所名	グループホーム すずらん
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉市杷木穂坂89-1 (電話)0946-62-3383

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 22年 3月 19日	評価確定日	平成 22年 3月 26日

【情報提供票より】(平成 21年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	17人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.8人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	○有(50,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(平成 21年 10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86、7 歳	最低	68 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森山内科医院、筑後川温泉病院、小石原歯科診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

22年2月、“グループホームすずらん”は開設5周年を迎え、今まで支えて下さった方々へのお礼を込めて、“紅白饅頭”等が配られた。5年の歴史の中で、ご利用者の心身状況の変化もみられているが、暖かい日には、ホームの菜園の前で、ご利用者と職員が体操を楽しまれており、地域の方にとっても馴染みの光景となっている。病気の症状の変化もあり、“今”を混乱される方もおられ、医師と連携しながらも、“日々の関わり”の中でできることを続けている。日中“鍵”をかけていない玄関から、思いのまま外出される方々に、職員は瞬時に対応されている。施設長含め、職員同士のチームワークの良さも抜群になっており、ご利用者と一緒に、1時間歩き続けたこともあった。“うつ”等の病気の理解も深めながら、「もっと、1人ひとりの方を受け入れられるようになりたい」と職員は考えており、今後も研鑽を積んでいく予定である。“すずらん”の花言葉は“幸福”。一つ一つの花(幸福)が連なり、たくさんの方々に“幸福”がもたらされることを施設長は願っている。今日も”地域のぬくもりと明るい笑顔で すずらんライフ”が続けられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	毎月の会議の時に、日々の課題を確認し合い、改善に取り組んでいる。具体的な取り組み内容として、①運営推進会議の議事内容を、明確にわかりやすく残すようにされた。②災害時に備えて、非常食を準備された。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各ユニット毎に自己評価を行った。ユニット長が、職員個々に質問をしながら意見を集め、運営者に関する項目は、施設長が自己評価を行った。車いすの方も増え、“地域とのつきあい”が思うようにできないことが課題として挙がった。今後は、日常の中で、自己評価項目に向き合い、個々に振り返りを行っていきと共に、ホームを利用されている方にも評価をして頂く予定である。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催し、ホームの状況や行事内容、ご利用者のご様子の報告の他、外部評価結果も報告している。会議では、ホーム運営についての具体的な意見を頂いており、ホーム運営の改善やサービスの向上に活かされている。21年からの取り組みとして、会議の中で意見交換された内容を、職員が“議事録ノート”にわかりやすく残されるようになった。朝倉市の方々とも良好な関係が築かれており、22年度から2年間、施設長は、朝倉介護保険事業協議会グループホーム部会の副会長等を引き受けている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	ご家族の面会時に、日々の暮らしぶりなどを報告しながら、ホームに対するご意見や要望を尋ねるようにしている。毎月作成される“すずらんだより”は、写真が沢山掲載されており、瞬間の笑顔や活動状況がわかりやすく伝えられている。22年1月から、各担当が毎月のご様子をお手紙に書いており、ご家族に読んで頂く取り組みも開始されている。ご家族からの要望等は職員間で話し合い、改善策の検討が行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ご利用者と職員がホーム周辺を散歩していると、地域の方から「花を持っていかんね～」と声をかけて頂くことも多い。職員も、地域の方から覚えて頂けており、干し柿や野菜の差し入れを頂くことも多い。地域のお大師様まつりや、泥打ち祭り等の地域行事にも毎年参加している。ホーム行事のそうめん流しに子ども会を招待したり、ボランティアの方の訪問も続けられている。餅つき大会では、老人会や地区の婦人会、民生委員の方々の協力が心強く、職員も心から感謝している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの考えをより理解して頂くため、平成20年12月、職員全員で意見を出し合いながら、「地域と共に支えあい、たのしくのんびり ゆったりと・地域のぬくもりと明るい笑顔ですずらんライフ ・「急がず、あせらず」私らしい生活を」という理念を作った。ご利用者が、地域の中で、その人らしい暮らしが続けられるよう支援していくことが表現されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はリビングに掲示し、毎朝の申し送り時には、ご利用者も一緒に唱和されている。職員の入れ替わりも少なくなり、職員全員、理念の理解ができています。常に、施設長が「(ご利用者に)関わって・・」「ゆっくり座って・・」と伝え続けており、職員も日々実践できるように努めている。ユニット同士の連携も取れ、その都度のご利用者のお気持ちにも向き合いながら、ゆったりとした時間が過ごせるようになっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長の地元の地域でもあり、地域の方々は、施設長への信頼も厚く、行事や集まり、助けあいを続けてきた。ご利用者は、お大師様や泥打ち祭りなど、地域の行事に参加している。ホーム行事のそうめん流しには子ども会を招待したり、餅つき大会では、老人会や地区の婦人会・民生委員の方々が主となり、手伝って下っている。	○	地域の方から、果物や野菜などを頂くことも多い。近所の方のお庭をお借りして、お花見を行うこともでき、有難く思っている。今後も引き続き、地域の方々や老人会等も含めて、交流を深めていく予定である。また、職員の子どもさんがホームに来られると、ご利用者の表情が違うということで、今後は、地域の幼稚園児等との交流の機会を増やしていければいいかであろうか。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット長の仕事を理解するため、6か月に1回、ユニット長の交代が行われている。自己評価の時期に就任しているユニット長が中心になり、自己評価のまとめ役をしている。自己評価はユニット毎に行われており、ユニット長が、個々の職員に質問をしながら意見を集め、集約した意見は、ユニット長が一つにまとめている。運営者の項目は、施設長が担当している。	○	新しくユニット長になることで、主体的に自己評価に関わる機会を頂けている。仕事の合間に、それぞれの職員の意見を集めていく作業をしているが、質問を受ける職員は、その内容がどのように反映されているかの理解ができていなかった。今後は、日々の生活の中で“入浴を楽しむ”“外出支援”等の項目を意識し、職員個々に振り返りを行いたいと考えられている。職員同士で話し合う機会が作られることも期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、ご利用者、ご家族、朝倉市役所の方、民生委員、老人会長等が参加されている。会議の場は各ユニットを交互に使うようにしており、参加者にご利用者の様子を知って頂けるようにしている。会議の中では、ホーム運営について具体的な意見を頂いており、ホーム運営の改善やサービスの向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム運営や制度の疑問がある時は、施設長が市役所に出向き、直接、担当者に質問するようにしている。運営推進会議以外でも、市の担当者との関わりがあるが、親身に対応して下さっている。市から、入居希望の方の相談を受ける等、良好な関係は継続されている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、制度を活用している方はおられない。職員が順番に外部研修に参加しており、伝達研修も行われている。ご家族等には、入居時に、施設長から制度の説明が行われており、ホーム内に、制度のパンフレットが備えつけられている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時に、日々の暮らしぶり等を報告している。体調変化があった時は、随時電話で報告し、対応を相談している。毎月、写真が掲載された「すずらん便り」の送付も続けられており、ホームの行事やご利用者の様子が報告されている。22年1月から、個々の担当職員が、ご利用者の暮らしぶりや健康状態についてのお手紙を書くようになった。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に、ご意見や要望を尋ねるようにしている。職員とご家族の会話の中から、ご家族の要望を汲み取れることも多い。ご意見や要望は、職員間で話し合いを行い、運営推進会議の中でも議題に挙げ検討が行うこともある。内容によっては、施設長が対応することもあり、ご家族の真意を汲み取る取り組みが行われている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が、ご利用者の状況を把握できるよう、たまに、各ユニットの職員の入れ替えを行う時もあるが、異動は少ない。ご利用者は、ユニット間の往來を日常的に行っており、職員の異動後のダメージや影響は殆ど見られない。施設長は、基準以上の人員を配置し、職員の休みの希望にも極力応じている。昼休みは、職員で自由に語れる時間を作り、食事会等の職員親睦の場も設けている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	施設長は、職員の募集・採用にあたって、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象から外すことはしていない。料理やレクリエーション、飾り付け、野菜作り等、それぞれの職員が持っている特技や趣味の能力を、日々のケアの中で発揮してもらっている。職員が希望する研修の受講費用や旅費の補助も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設長や職員は、人権に関する外部研修に参加しており、研修資料を基に内部研修を行い、職員全員で理解を深めている。また、施設長は、日々のケアの場面や申し送り・会議の場面で、常にご利用者の人権を尊重することを伝え続けており、職員間の理解は深まってきている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長や職員は、交代で、認知症介護実践者研修や福岡県高齢者グループホーム協議会、朝倉介護保険事業協議会等の研修に参加している。職員は、年度初めに今年度の目標を掲げ、年度末に施設長と職員で話し合い、1年の振り返りを行っている。施設長は、職員の目標と合わせて、個々の職員の経験や能力に応じて、外部研修への参加を提案している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長は、22年3月まで、福岡県の高齢者グループホーム協議会の地区の副会長を務めていた。22年4月からは、朝倉介護保険事業協議会グループホーム部会の副会長を務める。認知症を抱える家族の会にも参加している。朝倉市内のグループホームと連携を図り、相互訪問や見学を行ったり、管理者間での電話連絡を通じて、事業所同士で日常的に情報交換や相談を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始時には、施設長とユニット長が、自宅や病院を訪問することもある。事前にホームを訪問して頂き、様子を見て頂くことも多い。入居前に、ご家族にセンター方式の書式をお渡しし、ご利用者の情報を記入してもらっている。その情報は、入居後、ご利用者の日々の暮らしぶり(行動)や会話の内容に活かしながら、ホームの雰囲気に慣れて頂くための支援に活用されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、“干し柿の作り方”や“干し柿のひもの結び方”“行事のもぐら打ち”の歌を教えて頂くなど、生活の知恵を教えて頂くことが多く、“人生の大先輩”という気持ちを持って、共に生活をさせて頂いている。ケアを行うたびに、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えて下さり、夜勤の時にも、「おおごつな一(大変ね)」と、労いの言葉をかけて下さる。ご利用者からの言葉と笑顔に、いつも癒しを頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者毎に、担当職員を決めている。入居前に、ご家族や居宅時代の担当介護支援専門員から、暮らしぶりなどの情報を頂き、ご利用者やご家族の希望の把握に努めている。入居後も、“ホームで、どのように生活していきたいか”をご利用者に尋ね、その言葉や行動を通して、思いの把握を続けている。得られた情報は、全職員で共有している。	○	明確に意向を伝えることができない方にも、ゆつくりとご利用者の行動に付き添い、そばで寄り添う中で、思いを知る取り組みを続けている。その時々“混乱”する感情にも向き合い続けており、ご本人の意向に寄り添い、1時間、一緒に歩き続けたこともある。“うつ”等の病気の理解を深めながら、「もっと、1人ひとりのご利用者を受け入れられるようになりたい」と、職員は願っている。ホーム内外での研修を重ね、日々のケアに活かされていくことを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者やご家族の意向を大切にしている。病状にも配慮しながら、職員の日々の気づきに加えられ、ホームの介護支援専門員の助言のもと、担当職員が作り上げている。計画には“買物”という視点も盛り込まれ、ご利用者やご家族自身の言葉を用いて表現しており、ご利用者やご家族の立場に立った配慮がなされている。かかりつけ医等にも相談し助言を頂いている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の状況は個別記録に残され、申し送りで共有されている。全ご利用者の計画について、月に1回、評価と検討が行われているが、各担当職員が中心となり、職員全員で話し合いを行っている。ご利用者、ご家族の状況や要望に変化があった時は、設定した時期の前でも介護計画の見直しが行われている。個別手順書も作成しているが、状態の変化が早い方もおられ、タイムリーな変更が間に合わない時もある。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内の看護師との連携が取れており、日々の生活の中で、早期発見を行い、早期治療に結びつけている。入院時は、病院との連携を図りながら、ホームでの生活復帰に向けた働きかけを行っている。ご希望に応じて、外泊支援(準備、介護状況の伝達等)も行われた。ご利用者の誕生日には、希望に応じた外食に出かけているが、「毎月、外食がしたい」という要望が聞かれ、さっそく、介護計画にも反映された。他のご利用者もお誘いしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医で受療頂いているが、往診をして下さる医師もおられる。通院介助は、職員もご家族も行っている。“混乱”が強い時等は、精神科の医師に相談をする場合もあり、診察日で無い日でも、通院すると診察をして下さり、病状に応じて、短期間の薬を出して下さる。症状が治まったら中止になることも多く、治療とケアが適切に行われるように、情報交換が密に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、ご家族に“重度化した場合における対応に係る指針”を渡しており、ご利用者が尊厳を持って、最期までその人らしく生活できるよう支援していく事が、施設長から伝えられている。入居時から、ご利用者やご家族に、“終末期の意向”確認を行っており、ご利用者の状態の変化時は、その都度、話し合いが行われている。医師の指示を頂きながら、ホームで対応できる範囲で医療処置も行われている。21年度は、医師、ご家族とも協力して、お1人の看取りケアが行われた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から、ご利用者への言葉遣いや対応の配慮が徹底されており、職員同士で注意し合う必要もない。ご利用者への誘導の声かけはさりげなく行い、ご利用者の言動や行動を否定したり、指導的な言動を取ることない。職員間の申し送りも、声を落として行う等、職員全員で意識して、個人情報の管理にも取り組んでいる。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や起床、就寝時間といった大まかな日課はあるが、「ゆっくりと食事を摂りたい」「夜はゆっくりとテレビを見たい」というご利用者の希望に対応し、それぞれのペースに応じた生活をされている。希望を伝えられない方には、ご利用者と共に行動し、意向の確認を続けたり、ご本人が選びやすいよう、2つの選択肢を伝え、選んで頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望を伺いながら献立を考えており、食材の下ごしらえや配膳・下膳・テーブル拭き・食器の片付けなどの役割を担われている。食事は、ホームの菜園で採れた野菜等がふんだんに使われている。食事の声かけや介助をしながら、職員も一緒に、持参したお弁当等を食べている。天気の良い日はテラスで食事をしたり、夏は、ホームでそうめん流しを行う等、季節感を味わいながら食事を楽しまれている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14時から16時を入浴時間としている。一番風呂を希望される方には、一番に入って頂いているが、ご利用者の気分や希望に合わせて、順番等を変えている。2人で仲良く入られる方もおられる。湯船につかることを好まれる方も多く、普段は言われない冗談が出ることもあり、職員との会話を楽しまれている。菖蒲湯・ゆず湯を楽しんだり、日曜は、フットバスでの足浴も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者に役割や楽しみ事を持って頂けるように、日々、努めている。ラジオ体操の号令かけや食事の準備、片付け、洗濯物たたみ、花を生けて頂くなど、それぞれ担って頂いている。塗り絵、計算ドリルを集中して行う方、ホームの周辺の散歩を楽しまれる方等、個々のご利用者に応じた楽しみごとに取り組まれている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	新型インフルエンザの流行時期は外出を控えたが、天気の良い日は、ホーム周辺の散歩を行い、ホームの菜園の前で体操をしたり、歌を唄うなど、屋外での活動も続けている。季節に応じて、紅葉、桜やコスモスのお花見も行われている。身体的に外出が難しい方についても、体調に配慮しながら、外出を楽しめるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夕方6時50分から朝8時の間は施錠しているが、日中、玄関等の鍵はかけていない。自由に外出される方もおられ、見守りと合わせて、玄関のセンサーも活用している。常に、職員が自配りを行い、ご利用者が落ち着かれない時は一緒に外出し、ご利用者が満足されるまで一緒に歩いている。施設長の応援も心強く、夜間も含めて、必要時、施設長が駆け付けている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回、職員とご利用者で避難訓練を行っており、年に2回、消防署との合同訓練も行っている。民生委員の方等も近くに住んでおられ、「大きな声で呼んでください。駆けつけます」と、言って下さっている。飲料水は、上水道が自家発電によって供給されるようになっており、缶詰め、乾パン、インスタント食品等、災害時の非常食も準備された。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な野菜がふんだんに使われており、看護師である施設長が献立を確認し助言をしている。ご利用者の状態に合わせて、刻み食やミキサー食も作られており、好みで、カレーなどを別皿に盛る等、個々に応じた対応が行われている。食事をすくいやすいように、特注で“小石原焼”の食器を作って頂くなど、ご自分のペースで食べることができる支援を続けている。摂取量の把握も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット間にある仕切り扉は、開放している時間も長く、ご利用者は、自由に両ユニットを行き来されている。装飾担当の職員が、季節に応じた装飾を行っているが、危険回避のため、外れやすい押しピン等は除去し、テープなどで固定されている。リビングの一角にはソファが配置されており、一つのユニットでは畳の間も作られている。それぞれのご利用者が、思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご利用者とご家族と相談しながら、昔から使っていたたんすや鏡台、テレビ等を自宅から持ち込まれている。好物の飴を小さな入れ物に入れ、持参された方もおられる。居室には、ご家族や若い頃のご利用者の写真を飾ったり、ご利用者と職員で作った作品を飾る等、それぞれの方に応じて、居心地良く過ごして頂く工夫をしている。ご主人が、口紅等の化粧品を買ってきて下さる方もおられる。		